

平成30年度予算額(案) : 3,340百万円  
 (平成29年度予算額 : 3,340百万円)  
 ※運営費交付金中の推計額含む

我が国の航空機産業の国際競争力を向上させるため、先導的・基盤的な研究開発を実施し、その成果を我が国の産業全体に還元。

- 戦略的次世代航空機研究開発ビジョン(平成26年8月 文部科学省次世代航空科学技術タスクフォース)に基づき、我が国の航空機産業が2040年に世界シェア20%産業へ飛躍する際に必要となる革新的な技術の獲得に向け、以下の目標を設定し、研究開発を推進。

目標：2025年までに以下の目標を達成するための基盤技術を獲得  
 航空機事故の25%を低減する安全性の実現  
 騒音を1/10に低減する環境適合性の実現  
 燃費半減による画期的な経済性の実現

【主なプロジェクト】

○航空環境・安全技術の研究開発

2,762百万円(2,743百万円)

航空機に求められている環境適合性、経済性及び安全性の3ニーズに対応し、日本が強みを持つ技術の研究開発を推進。

- ・ 環境適合性及び経済性については、国際競争力強化のため、燃費と環境負荷性能を大幅に改善するコアエンジン技術(燃烧器、タービン等)の技術開発を進めるとともに、技術実証に向けてF7エンジンの整備を進める。
- ・ また、機体騒音の大きな原因となるフラップや脚装置等について低騒音化を進めるための技術開発・飛行実証を実施。
- ・ 安全性については、運航経路に存在する乱気流やその他特殊気象(雪氷・雷・火山灰等)に起因する航空機事故を軽減できる技術開発・実証を実施。

このほか、超音速機等の研究開発等を実施。

燃烧器      タービン

コアエンジン技術      技術実証用エンジン導入  
F7エンジン(哨戒機P-1に搭載中の国産エンジン)を整備

エンジン技術実証設備

機体騒音低減技術      乱気流事故防止機体技術

機体制御      アクチュエータ

動揺低減      乱気流検知装置

気流レーザ光